授業案② 子どもの権利と大人の権利

～ヤングケアラーについて考える～

1 対象

中学生

2 獲得目標

- ・ 子どもの権利の観点からヤングケアラーについて考える。
- ・ 介護に関わる大人の人権について考える。
- ・ 日本の介護保険制度について考える。
- ・ 原理原則論に基づいて自分なりの結論を下すという法的思考力を養う。

3 授業の流れ

	学習活動	指導上の留意点
導入 3分	最近の介護やその負担に関するニュース等を取り上げ、家族内でお世話が必要な人が出た場合、誰がそれを担当すべきなのかということについて、子どもの権利、大人の権利の観点から考えて欲しいという今日の授業の目的を説明する。	現在何人で住んでいるか等生徒に質問をしてみて、和やかな雰囲気作りができると良い。 (ただ、片親、離婚、死別等の事情がある生徒がいないか事前に確認する必要あり)。
展開 40分	<p>①グループワーク (5分)</p> <p>事前に各自宿題として検討してもらったものを元に、祖母の世話を誰が、どのようにして行うのが良いか、4人程度のグループに分かれてディスカッションしてもらおう。案だけでなくその理由等も自分たちなりにいいのでつけてもらおう。</p> <p>②発表 (4分)</p> <p>ディスカッション内容(どういう案が出たか、それについてどういう議論が行われたか)について、各グループの代表者に簡潔に発表してもらおう。</p> <p>③解説 (3分)</p> <p>子どもの権利条約に基づく子どもの権利について簡単に解説。</p> <p>④グループワークと発表 (15分)</p> <p>①のグループワークの議論について、子どもの権利との関係で問題がなかったかどうか考えてもらおう。また、各班に発表してもらい、②の結論が、④でどう変化したかも自分達の言葉で良いので正直な感想を言ってもらおう。</p>	<p>事前の検討段階では特に知識を与えず、自由な発想で様々な案を考えてもらおう(授業時間の関係上、各自の検討は宿題とし、その内容の共有を授業中に行うという進行にする)。</p> <p>②については、何も教えない状態でのフラットな生徒の感覚を聞く事が主であるため、短時間に収める。ただし、理由をつける感覚を持ってもらう為、出来る限り「なぜ」と理由を聞いてみる。</p> <p>④～⑥の主眼は、裸の衡量論ではなく、原理原則に基づく衡量論という法的思考を、各生徒に体験してもらうことにある。現状の生徒らは、計算式のように答えのある問題に慣れ過ぎて、試験問題以外の私生活でも極論や中庸論に流れがちである可能性がある。そうでなく、一つ一つの具体</p>

	<p>⑤解説 (3分) 大人の権利についても解説 (幸福追求権、各家庭間の平等権、高齢者の生存権など)。</p> <p>⑥グループワーク (7分) ①のグループワークの議論について、各グループに、大人の権利との関係で問題がなかったかどうか考えてもらう。また発表してもらう。</p> <p>⑦追加解説 (3分) ⑥は、原則論同士の比較衡量であるため、応用的であると説明する。しかし、同じ原則でも同価値でなく、例えば他の手段で代替可能なものは価値が落ちたり、対立する原則同士で強さが変わったりすると説明する。すると、もし子どもの権利は代替が効かず、大人の権利は別の社会制度や福祉サービスで代用できるなら、子どもの権利の方が強くなったりすると知ってもらう。 例えば、本来子どもの権利は50%動かすもので、大人の権利ではそれをあまり動かさないと考えれば40%程度までしか子どもの権利は下がらないかもしれない。</p>	<p>的事情を考慮し、また原則論を考えた上で、出来る限り「右か左か」でなく「何%くらいそう思うか」と聞いていくことが、極論を避けるために有用と考えられる。</p> <p>その上で、原理原則論とは「スタートラインが±数%動く」ことであると説明すると、理解されやすいかもしれない。つまり、生徒らが事前に45%そう思うと答えて、子どもの権利という原則が50%程度動かす効力を持つなら、95%位になったりする、と説明することが、分かりやすいかもしれない。</p> <p>⑦はあくまで応用であり、また④も含めて、答えがある問題ではないことを再度触れる。そして、どれが何%動かすかも、また動かさないかも、各自自由な考えをもって良いと伝える。人によって、97%だと思ふ人もいれば、5%だと思ふ人もいる。重要なのは、そのパーセントに、自分なりの理由をつけられることである。それは必ず思慮深い判断に繋がる。</p>
<p>まとめ 7分</p>	<p>グループワークの振り返りをした上で、日本の介護保険制度や高齢者・介護支援制度、自治体の協力等を説明し、家族以外の支援を得ることができることも伝える。</p> <p>そして、子ども、大人それぞれに権利があるということと、その権利が衝突する時に裸の比較衡量を行うのではなく、原理・原則論に立ち返って考える方法があるということを伝えてまとめる。</p>	<p>上記のようにどちらの原理原則も大切だからこそ、誰かの権利を犠牲にすることなく、権利同士の衝突も起こさないようにするために、こうした社会制度を作っているし、これからも作っていく。皆さんも、これから選挙に参加し、色々な制度に意見できるようにしていく。積極的に、意見発信をしてほしい。</p>

ワークシート

【事例】

関弁 蓮子（かんべん れんこ）さんは、中学1年生（13歳）。部活はバレーボール部で、平日は週3日練習があり、土日も練習があることがあります。

お兄さん（18歳）は、高校三年生。来年の大学受験に向けて毎日塾に行っていて勉強に励んでいます。

お父さん（48歳）は、会社員。勤務時間は9時～18時です。

お母さん（45歳）は、会社員。勤務時間は、7時～16時の週と12時～21時の週が交互にあります。

母方のおばあさん（75歳）とおじいさんも同居していたのですが、昨年おじいさんが79歳で亡くなったので、今は合計5人で住んでいます。

先月、おばあさんが散歩中に転んでしまい、腰を痛めて自分で歩けなくなってしまいました。入院していたのですが、来月から家に戻ってきます。基本寝たきりで、ご飯は誰かの介助がないと食べられない状態です。

Q1（宿題）

おばあちゃんの世話はどうやって、誰がどんな風にするのがよいでしょうか？ 家族で分担するとしたら、あなたならどう分担しますか？

Q2 (宿題)

家族以外の方が手助けをしてくれるでしょうか？調べてみましょう。

Q3

班ごとに祖母の世話を誰が、どのようにして行うのが良いかディスカッションしてください。

() 班

メモ欄